

どんぐり にまつわる お話

稲武地区中村遺跡から出土したどんぐり

中村遺跡は豊田市桑原町にあり、この発見から、稲武地区の道の駅は「どんぐりの湯」と名付けられました。

この遺跡は縄文時代後期（今から4千～3千年ほど前）のもので、ここから8か所の

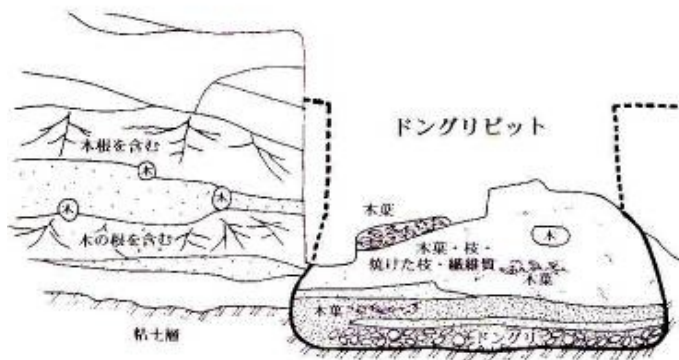
どんぐり貯蔵遺構（どんぐりピット）が発見されました。これらのピットはどんぐりのアクを水抜き、貯蔵するための施設で、中には炭化した小枝や葉なども一緒に入れていました。直径65 cm、深



〈発掘されたどんぐり〉

さ75 cm のひとつのピットからは、全部で713個のコナラやアベマキなどのどんぐりが見つかりました。中には、発芽しないように、胚をつぶして保存されたものもありました。

〈どんぐりピットの様子〉



どんぐりに卵を産んで子育てする

ハイイロチョッキリ

コウチュウ(甲虫)目 | ゾウムシ科



卵を産んだどんぐりの枝ごと
チョッキリと切り落とす

子どもは地面で生育する
餌となるどんぐりを確保するため



ハイイロチョッキリが切り落としたコナラの小枝



どんぐりを割ったら



中から出てきた 幼虫

画像は 相生山緑地
2012.9.9 撮影

ハイイロチョッキリが9月ごろ どんぐりに卵を産み付けて **切り落とした後**
コナラシギゾウムシ (コウチュウ目ゾウムシ科) が
残っている どんぐりに卵を産みます

木についたままのどんぐりの中で子どもは育ちます